2026 年 9 月　ver.4

研究課題名	人工知能による深層学習を活用した肝細胞癌における術前 CT 画像を用いた術後予後予測モデルの開発
研究の意義・目的	肝細胞癌におけるＣＴ画像所見ではこれまで腫瘍の形態や内部構造が腫瘍分化度や悪性度と相関すると報告されています。しかし、画像所見は主観的であるため予後予測因子としてはあまり有用ではありません。近年注目されている人工知能(AI)の分野である深層学習は、対象となるデータから自動的に特徴を抽出し対象物の分類や定量化に最適と考えられています。今回８施設から取得した CT 画像と臨床情報を用いて AI によって肝細胞癌術後長期成績に対する予後予測モデルを開発することを目的しています。 本研究は大阪公立大学が中心となって行う研究です。
研究を行う期間	「機関の長の実施の許可日」～　2027 年 12 月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2007 年 1 月～2019 年 12 月に下記の研究機関で、単発の肝細胞癌の手術のため入院された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、米国麻酔学会術前状態分類、検査データ、CT 画像、手術情報、病理検査結果、術後経過】
試料・情報の他機関への提供	この研究は 大阪公立大学大学院肝胆膵外科学へ頂いた試料・情報を提供します。その際は、特定の個人を識別できない形で提供します。
この研究を行っている共同研究機関	大阪公立大学大学院医学研究科　肝胆膵外科学　石沢武彰 関西医科大学・外科学講座　診療教授　海堀昌樹 近畿大学・外科　教授　中居卓也 和歌山県立医科大学・外科学第２講座　講師　上野昌樹 京都府立医科大学・消化器外科　講師　生駒久視 奈良県立医科大学消化器・総合外科　助教　安田里司 明和病院・外科　診療部長　　相原司 Centre Hepato Biliaire Hopital universitaire Paul Brousse　Nicolas Golse
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科　肝胆膵外科学　教授　石沢武彰
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	研究責任者　大阪公立大学大学院医学研究科　肝胆膵外科学 教授　　石沢武彰 住所　大阪市阿倍野区旭町 1-4-3　肝胆膵外科学医局 電話　06-6645-3841 FAX　06-6646-6057 E-mail　take1438@gmail.com